

川西町吉島地区人・農地プラン（更新4回目）の概要

1 協議の場を設けた区域の範囲
吉島地区（1006.1ha）

2 協議の結果を取りまとめた年月日
平成27年8月26日

3 当該区域における今後の地域の中心となる経営体（担い手）の状況

102経営体⇒103経営体

法人		1経営体
個人	99経営体⇒ <u>100経営体</u>	
集落営農（任意組織）		2経営体

4 3の結果として、当該区域に担い手が十分いるかどうか
担い手は十分確保されている

5 農地中間管理機構の活用方針

- ・地域の農地所有者は原則として農地中間管理機構に貸し付ける。
- ・農業をリタイア・経営転換する人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける。
- ・担い手の分散錯圖を解消するため利用権を交換しようとする人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける。

6 中心となる経営体と連携する農業者
23経営体

7 地域農業の将来のあり方

複 合 化：稲作と転作作物・野菜・花きの複合経営を進めている。今後は労働配分
を考えた部門の組み合わせを行う。

6 次 産 業 化：町内の8割以上の紅大豆を生産する一大生産地であることから、町と連
携した加工品の開発などの取組を行う。

新規就農の促進：後継者がスムーズに就農できるように、6次産業化を含めた販路の拡大
など環境整備を整えていく。

低 コ ス ト 化：耕種農家と畜産農家が連携し飼料生産の拡大を図る耕畜連携を積極的に
進める。また、農地の集積を図り、労働時間・経費の削減を図る。

川西町犬川地区人・農地プラン（更新3回目）の概要

1 協議の場を設けた区域の範囲

犬川地区（574.9ha）

2 協議の結果を取りまとめた年月日

平成27年8月26日

3 当該区域における今後の地域の中心となる経営体（担い手）の状況

72経営体⇒73経営体

法人		2経営体
個人	70経営体⇒ <u>71経営体</u>	
集落営農（任意組織）		0経営体

4 3の結果として、当該区域に担い手が十分いるかどうか

担い手は十分確保されている

5 農地中間管理機構の活用方針

- ・地域の農地所有者は原則として農地中間管理機構に貸し付ける。
- ・農業をリタイア・経営転換する人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける。
- ・担い手の分散錯圃を解消するため利用権を交換しようとする人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける。

6 中心となる経営体と連携する農業者

5経営体

7 地域農業の将来のあり方

生産品目の明確化(追加)：土地基盤整備と併せて、主食用水稻と野菜（キャベツ、ネギ）を中心とした地域農業を展開する。

複 合 化：水稻と大豆、園芸作物等の転作作物の複合経営を進めている。今後は労働分配を考えた部門の組み合わせを行う。

高付加価値化：基盤整備を契機とした園芸作物（キャベツ）の産地化を目指す。

新規就農の促進：後継者がスムーズに就農できるよう、基盤整備を進め農業環境の整備を図る。

低コスト化：耕種農家と畜産農家が連携し飼料生産の拡大を図る耕畜連携を積極的に進める。また、農地の集約を図り、労働時間・経費の削減を図る。

川西町時田地区人・農地プラン（更新2回目）の概要

- 1 協議の場を設けた区域の範囲
時田地区（第4、第5推進地区）（231.1ha）
- 2 協議の結果を取りまとめた年月日
平成27年8月26日
- 3 当該区域における今後の地域の中心となる経営体（担い手）の状況

13経営体⇒16経営体

法人		0経営体
個人	13経営体⇒ <u>16経営体</u>	
集落営農（任意組織）		0経営体

- 4 3の結果として、当該区域に担い手が十分いるかどうか
担い手は十分確保されている
- 5 農地中間管理機構の活用方針
 - ・地域の農地所有者は原則として農地中間管理機構に貸し付ける。
 - ・農業をリタイア・経営転換する人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける。
 - ・担い手の分散錯圃を解消するため利用権を交換しようとする人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける。
- 6 中心となる経営体と連携する農業者
2経営体
- 7 地域農業の将来のあり方
 - 生産品目の明確化：主食用水稻と有畜農家に供給する飼料作物等を中心に地域農業を展開していく。
 - 複 合 化：水稻及び転作作物に加え、古くから畜産が盛んである。今後も、耕種農家と畜産農家が連携し、経営の安定化を図る。
 - 6 次 産 業 化：こまつ市への出店やスーパーでの直売・庭先販売など、直接生産者の顔が見える販売を展開していく。
 - 高 付 加 価 値 化：主食用米の食味検査などを実施し、安心・安全に加え高付加価値化による他地域との差別化を図る。また、特別栽培米の作付を積極的に推進する。
 - 低 コ ス ト 化：農地の集約化を図り、労働時間の軽減を図る。併せて出し手農家の協力を得ながら集落営農を進めていく。